

第16回新春技術講演会の開催にあたって

龍谷大学は、創立350年の節目にあたる平成元年に、理工学部と社会学部からなる瀬田キャンパスを滋賀県大津市に開設いたしました。滋賀県初の理工系学部を有する総合大学としての責務から、キャンパス開設時より科学技術共同研究センターを組織して研究の活性化を図り、数多くの研究プロジェクトを展開してまいりました。平成4年には、龍谷大学と社会とが双方向で交流できる窓口として龍谷エクステンションセンター（REC）を設置し、企業規模にとらわれない開かれた技術支援体制の構築に力を入れております。その後も文部科学省助成認可による研究プロジェクト（HRC、AFC、ORC）が次々に採択される一方、学外の方々との交流の場を設定することが重要であるとの認識から、科学技術共同研究センターでは、瀬田キャンパス開設当初から重要な行事の一つとして新春技術講演会を開催してまいりました。その歴史は、瀬田キャンパス・理工学部の歴史でもあり、皆様方からの熱い期待と暖かいご支援の下で、今回で第16回目を迎える運びとなりました。

この度の講演会では、テーマを「グローバル・テクノロジー^(*)～技術と環境の調和をめざして～」と設定し、「技術」と「環境」というこれまでは相反する関係にも

あった2つの視点から、今後めざすべき科学技術の方向を見つめ直す機会をぜひともつくりたいと考えました。基調講演では、近年急速に進展を遂げ現在もなお質的かつ量的に大きな変革が続いているデジタル通信技術の分野から「デジタルコンバージェンスとユビキタス社会」について、講演Ⅰ&Ⅱでは、「織物複合材料のシミュレーション技術」と「里山の変遷と将来」という、永年にわたって積み上げられた資源を尊重しつつ既成概念を超え新しい発想で取り組まなければならないであろう2つの分野について、それぞれの分野を世界的にリードする学内外の3名の専門家にご講演頂きます。講演を通じ、豊かな生活のために必要な科学技術はどのようにあるべきかといった点にまで想いを巡らして頂ければ幸いに存じます。

講演と講演の間には、科学技術共同研究センター支援の研究課題を中心に、本学理工学部教員の研究成果を広くボスターによりご紹介申し上げます。同時に、日頃疑問に思っている技術的課題の解決につながればと考え、技術相談の窓口を設けておりますので、お気軽にご利用ください。また、恒例となっております講演後の懇親交流会においては、講師の方々や龍谷大学教員との談話が新し

い研究戦略や開発などの一助になりやすことを願っております。

日本の経済・産業もようやく復活の兆しが見えてきたようですが、大学で生み出されるシーズを産業に活かさないかといった声は依然として高く、国からも、大学のシーズを原資としたベンチャー企業の育成、拠点的な研究連携の推進など、さまざまな方策が打ち出されております。そうした即効性のある連携が期待される一方で、息の長いグローバルな連携、それを実現するためのフレームワーク作りが今ほど求められている時代もないでありましょう。

皆様方のご支援、ご協力により、この新春技術講演会も滋賀の地にしっかりと根を下ろしました。相互の情報交換・意見交流を通じまして皆様方の益々のご繁栄を期待する次第であります。どうか多数のご参加を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成16年10月

龍谷大学科学技術共同研究センター所長
堤 一義
龍谷エクステンションセンター長
堀川 武
新春技術講演会実行委員長
塩見 洋一

沿革

- 平成元年 創立350周年記念事業の一環として、理工学部（数理情報学科、電子情報学科、機械システム工学科、物質化学科）と社会学部からなる瀬田キャンパスを開設 同時に科学技術共同研究センターを設置
- 平成3年 龍谷エクステンションセンター（REC）を設置
- 平成8年 ハイテク・リサーチ・センター（HRC）を設置、国際文化学部開設
- 平成13年 古典籍デジタルアーカイブ研究センター（AFC）を設置
- 平成15年 理工学部に情報メディア学科と環境ソリューション工学科が加わり、計6学科体制となる
- 平成16年 里山学・地域共生学オープン・リサーチ・センター（ORC）を設置

(*) グローバルとは、グローバルとローカルを融合した新語。ローカルな連携からグローバルな発信を行い、グローバルな情報をローカルに共有。この語をテクノロジーの前に付けて、今後のテクノロジーのありように期待を込めて表すこととしました。